



戦災焼失前の本堂

# 香林

こうりん  
 香林山 無量寺  
 機関紙 第8号  
 発行者 堤 俊海  
 香林編集委員会  
 久留米市本町 8-4  
 TEL0942-32-3010  
 FAX0942-32-2701

**法然上人のおことば**

第五(選択本願)  
 本願というのは阿弥陀仏の未だ仏にならせ給はざりし昔、法蔵菩薩と申ししいにしえ、仏の国土をきよめ、衆生を成就せんがために、「世自在王如来と申す仏の御前にして、四十八願を、おこし給いし其の中に、一切衆生の往生のために、一つの願をおこし給えり。これを念仏往生の本願と申す也。」即ち無量寿経の上巻にいわく、もしわれ仏を得たらんに、十方の衆生、至心に信樂(しんぎょう)して、我が国に生ぜん欲して、乃至十念せんに、もし生ぜずば、正覚(しょうがく)を取らじと。「善導和尚、この文を釈して、のたまわく、若し我成仏せんに、十方の衆生、我が名号を称すること、下十

声に至るまで、若し生ぜずば、正覚を取らじ。」彼の仏、今現に世にましまして成仏し給えり。まさに知るべし、本誓の重願むなしからざること。衆生称念すれば、必ず往生を得と。「念仏というのは、仏の法身を憶念するにもあらず、仏の相好を觀念するにもあらず、ただ心をいたして、専ら、阿弥陀仏の名号を称念する、これを念仏とは申すなり。ゆえに称我名号というなり。」念仏の外一切の行は、これ弥陀の本願に、あらざるがゆえに、たとひ目出度き行なりといえども、念仏には、およばざるなり。「大方、其の国に生まれんと、おもわんものはその仏の誓いに随うべきなり。されば、弥陀の浄土に、生まれんと、思わんものは、弥陀の誓願に従うべきなり。」

法然上人御法語より

## 浄土宗の教え

阿弥陀佛の平等のお慈悲を信じ、「南無阿弥陀佛」と名を称えて、人格を高め、社会のためにつくし、明るい安らかな毎日を送り、お浄土に生まれることを願う信仰です。

お釈迦様がお説きになつた『無量寿経』『觀無量寿経』『阿弥陀経』の浄土三部経をよりどころとします。

## 浄土宗の時間

あなたに贈るラジオ番組

九州毎日放送  
 日曜日 午前六時三十分より  
 文化放送  
 日曜日 午前五時三十五分より  
 中部日本放送  
 日曜日 午前六時五分より  
 毎日放送  
 日曜日 午前五時三十五分より

おしゃかさまのお誕生日をお祝いする  
**花まつり稚児募集ご案内**  
 おしゃかさまのお生まれになられた日をお祝いいたしましょう。  
 つぎのように およろこびの行事をします。

記

- とき 4月2日(水) 午後1時集合
- ところ 花まつり式典会場日吉町順光寺
- 稚児行列 バスで市内一巡後、サンロードあけぼの、一番街にて行道
- 甘茶接待 順光寺、サンロード、あけぼの一番街(どなたでも受けられます)
- 申込金 稚児1名 3,000円  
(貸衣装代と付き添い1名の貸切バス、記念品代を含む)

主催 久留米市仏教会  
 花まつり事務所太郎原町朝日寺  
 (TEL43-4805)  
 無量寺に申込書があります。  
 申込締切 3月25日

## 平成九年度法事年回表

一周忌	平成八年に亡くなられた方
三回忌	平成七年に亡くなられた方
七回忌	平成三年
十三回忌	昭和 六十年
十七回忌	昭和五十六年
二十五回忌	昭和四十八年
三十三回忌	昭和 四十年
五十回忌	昭和二十三年

詳細は本堂に掲示しています。

念仏講

法然上人の御命日に寺の本堂にてお経をあげ念仏を唱えて上人を忍ぶとともに、お念仏に精進させていただく講中で、浄土宗の寺院では古くから行われていました。

毎月二十五日午前十一時より  
 (変更の場合あり)  
 十四日会  
 毎月十四日(八月はお休み)午後七時より本堂にてお経の練習とお念仏の会です。十四日会は浄土宗開宗の日(三月十四日)と善導大師の御命日(三月十四日)にちなんで行っております。

浄土宗の歴史や教義、お経の解釈、などもしています。

## 浄土宗新聞を読みましょう

毎月1日発行 紙面12ページ 1部年間購読料 1,440円  
 ご自宅へ直送します。(送料込み)

お申し込みはハガキに住所、氏名、年齢、電話番号、菩提寺名を書いて次のところへどうぞ  
 購読開始号( )月号から希望するかも記入してください。  
 〒105 東京都港区芝公園4-7-4 浄土宗東京事務所内  
 浄土宗新聞編集室

# 今こそ浄土教の時代

『阿弥陀経』で説く「五濁」とは、劫濁、見濁、煩惱濁、衆生濁、命濁のことで、すなわち、「劫濁」とは、道理も法律もあつて無きがごとく、暴力のはびこる時代悪の世界。「見濁」とは、まともな考えは退けられ・邪教が世にびこる思想悪の世界。「煩惱濁」とは、私たちが貪り、怒り、愚かさゆえに苦しむ偏見悪の世界。「衆生濁」とは、仕方なく義理で付き合わねばならない社会悪の世界。「命濁」とは、汚染された食べ物や公害によって私たちの命がすり減らされる環境悪の世界を指します。法然上人の生きた鎌倉時代は、相次ぐ戦乱、大火、地震、飢饉、疫病が多発し、人びとは相争い、骨肉相食む状態で、人心は混乱の極に達し、こうした世界はまさに仏の教えもそれを実行する人もいない末法の世といつてよく、上人は、これはお経の説かれた古代インド

の時代とまったく同じ「五濁悪世」の時代であると考え、その真つ只中にあつて嘆き苦しむ人びとが救われる道を「専修本願念仏」に見出されたのでした。

近年、ノーベル生物学賞受賞者のコンラート・ローレンツ博士は「文明化した人間の八つの大罪」として、人口過剰、生活空間の荒廃、人間同士の戦争、感性の衰退、遺伝的な類廃、伝統の破壊、情報による洗脳されやすさ、核兵器の脅威を挙げていますが、まさに「五濁悪世」の予言が当たった感じですが。今まではいつの時代にも、人心が混乱の極に達すると、世直しの警告を発する予言者や救国の志士が現れたものですが、今日の世界にはそうした人を見当たらず、たまたに出ても人心を攪乱するのが関の山です。情報産業の発達した現代ではそうした権威者や英雄を必要としない時代だともいえま

すが、私たちはそうした人をあてにせず、自分自身の中に仏を求め、その心を心として、腐りきつたこの世に悲憤慷慨し、身近なところから率先して世直しに参画したらいかげでしょうか。

日々の暮らしのなかに感謝の気持ちを持ちましょう。

## 食前のことば

ほんとうに生きんがため  
に今この食を頂きます。  
与えられたる天地の恵みに感謝いたします。  
南無阿弥陀佛、頂きます。

## 食後のことば

われ食を終わりにて、心豊かにちから身にみつ  
おのがつとめにいそしみ  
誓つてご恩に報いたてまつらん。  
十念「ごちそうさま

## 日本語の中の仏教

### 大袈裟（おおげさ）

実質以上に誇張した表現に使われるが、文字通り大きな袈裟の意味。袈裟とは僧侶が左肩から右脇下にかけて、法衣を覆う形でつけている長方形の布のことである。今の僧侶は、お葬式や大法要などの儀式に際し、金襴仕立ての華美な袈裟（五条とか七条という）姿で出座することが多いが、本来は、梵語カシャ、シヤの音写で、「糞掃衣」と訳された。読んで字のごとく、汚くよごれた衣類という意味がある。初期の仏教教団では、修行僧たちが、ごみ捨て場や、墓場などから、汚いボロ布を拾ってきて、洗ったりつぎあてしたりして使ったものである。だから、多くは雑巾のように、いろいろな布を集めて刺し縫いの上着用するのが常であった。それで、今でもわざわざ各種の布をつぎあわせて作る。

## 仏事のQ&A

**問い** 一周忌、三回忌、七、十三、十七と法事を勤めますが、なぜ五年や十年ではなく、三年や七年と続くのでしょうか。また、法事の意味を教えてください。

**答え** 現在日本で行われている年回忌は、聖徳太子が定められた「礼綱本紀（れいこうほんき）」がもとになっているとされています。先祖を大切にされる仏教の教えに、インド、中国、日本の古来の風習などが加味されてきたもので例えばインドでは「七」という数字は、無限・完全・宇宙等を表すと言われ、とても大切に扱われています。亡くなった方が、あの世で修行を続け、一段ずつ階段を上がるように仏の位に近づき、いろいろな仏さまに教えを頂く時期に合わせて、残されたものがそのお手伝いをする心で、この世で行う仏事を追善法要というのです。一口に法事といいますが、昔から法事は三つの法を整えろと言います。三つの法とは法要・法

話・法楽です。お寺にお参りして住職にお経を読んでいただく儀式が法要、文字通り法の要です。仏さまのお話を聞き、自らの修養にすることが法話です。そして集まっていたらだ親戚の方々と語らう時間をもつことを法楽と言います。つまり法事は亡くなった方のご供養をすると共に自分たちの仏道修行でもあり、生きている喜びを味わう行事でもあるのです。亡くなった方のご冥福を祈るとともに感謝と反省の心で法事には参列し、法事ができてよかったと思える心を育てることを願います。

ここで苦言を一言。近頃の法事では、派手な服装の方を見かけることが多くなりました。やんわりご注意申し上げます。今日は内々だけですからおっしゃいます。自分の修養のためでもあるのですから最低限心落ち着く服装で参列して下さい。尚、亡くなった日から一年目が一周忌ですが、二年目が三回忌、六年目が七回忌となりますのでお間違いない。また、地域に

## インターネットホームページ開設

2月から予告ページが

アドレス <http://www.jodo.or.jp/>

来年、法然上人が「選択本願念仏集（せんちゃくほんがねんぶつしゅう）」を著されてから800年を迎えるにあたり、浄土宗では4月からインターネット上にホームページを開設することになった。世はまさにマルチメディア時代。日進月歩で発展しているパソコンを使つてのインターネットが、最先端の情報伝達手段として爆発的人気を博している。これは、文字通り世界中のコンピューター同士を結んだネットワークのことで、あらゆる分野の情報を提供しあおうとするシステム。本宗もこのインターネットに着目、昨年来進めてきた準備も整い、いよいよホームページ開設の運びに。法然上人の万人平等の教えを、日本という国の枠を越えて世界中の人々へあまねく伝えることを目的としたものだ。なお4月からの本稼働に先だち、2月より予告ページを公開。ご覧いただいた方々からの意見も募集中なので、是非アクセスしてみてもは。



インドガンジス河